

学校法人 兵庫医科大学

広報



兵庫医科大学



兵庫医療大学

2016年7月号
vol. 235

特集

熊本地震
医療支援活動レポート



熊本地震 医療支援活動レポート



平成28年4月14日の夜と16日の未明に発生した震度7の大きな地震により被災した熊本県を支援するため、兵庫医科大学病院よりDMAT 1チームおよび医療救護班2チームが被災地にて医療救護活動に従事しました。

兵庫医科大学病院DMAT(兵庫DMAT 1次隊)



DMATメンバーと小谷救命救急センター長

DMATメンバー（4月16日～4月18日）

上田 敬博 医師
清水 真幸 看護師
山田 裕基 看護師
西山 佳奈 看護師
藤岡 孝博 業務調整員

4月16日

【被災地に向けて出発】DMAT本部より派遣要請あり、兵庫医科大学病院をDMATカー及びドクターカーの2台で出発

4月17日

【避難所訪問】熊本市内の5か所

- ・訪れたすべての避難所で、当院のDMATが初めて支援に訪れた医療チームという状況。
- ・一カ所目に訪れた江南中学校には約1,500人が避難。避難所に入りきれない人、車中泊の人、指定避難所以外に避難している人などを入れると、要支援対象は2,000人ほど。
- ・水や食料が十分に供給されていないところも多く、1日におにぎり1個が配布される程度だった。

■診療・相談内容

- ・ガラス片による切り傷、転倒による打撲・捻挫、頭の挫創、指の骨折疑い、脱水等の応急処置や、頭痛、高血圧、精神疾患、切迫流産疑い等の診療など
- ・透析患者さんからの透析相談
- ・車での生活を余儀なくされている被災者が多く、水も十分に取れない状況だったので、深部静脈血栓症、エコノミークラス症候群に気を付けるよう、外で足を伸ばしたり体を動かすような指導も行った。

■避難所を回って分かったこと

- ・災害医療は、発災直後でも急性期患者だけを診るのではなく、慢性疾患患者の急性増悪が増加するリスクがあるので、医療機関で待つのではなく、発災直後から避難所へ介入する医療支援の必要性を感じた。
- ・ほとんどの避難所で被災者が自主的にコミュニティを作り、江南中学校の臨時救護所で診療秩序を維持していた。また、中・高校生や大学生らが積極的にこれらの活動を支援していた。
- ・どの避難所もプライバシーを守れるような仕切りがない。その点でも支援が必要。
- ・避難所に入りきれず、神社の境内や公園など避難所以外に避難している方も多い。その方々のケアも必要。



江南中学校の臨時救護所で診療

4月18日

【くもと森都総合病院での活動】

- ・くもと森都総合病院は、199床を擁する総合病院であるが、水道やガスが使えないうえ、既に1棟が倒壊していたため、17日に病院避難が決定していた。しかし、DMATが訪れた18日になっても、未だ43名の入院患者の行き先が決まっていなかった状況だった。

■活動内容

- ・当初は転院先に患者さんを搬送するというただけをDMAT本部より知らされていたが、当日、病院避難という過酷な状況であることを知ったため、即座に病院での転院本部統括を立ち上げた。



くもと森都総合病院で転院本部統括を立ち上げ



病院スタッフと連携して転院搬送に尽力

兵庫医科大学病院 医療救護班(兵庫県救護班 第2班・第3班)



医療救護班 第2班・第3班

医療救護班

■第1陣メンバー（4月25日～4月29日）

山田 太平 医師
雑賀 逸平 看護師 徳田 瑞枝 看護師
中村 豪志 薬剤師 鈴木 明良 業務調整員

■第2陣メンバー（4月29日～5月3日）

上田 敬博 医師
渡邊 幹生 看護師 宮脇 貴浩 看護師
坂本 淳一 薬剤師 甲斐 義啓 業務調整員

活動内容

■状況

- ・災害医療支援も、急性期から亜急性期・慢性期にニーズがシフト。
- ・医療支援のため、DMAT、NGO、各都道府県の救護班派遣など、さまざまな組織・団体が熊本に集まっていた。
- ・水道・ガス・電気などのインフラは、一部で破綻したままであった。

■活動内容

- ・第1陣(4月25日～29日)は、仮設診療所の支援や避難所の巡回に従事し、第2陣(4月29日～5月3日)は、主に南阿蘇村役場白水庁舎に置かれた熊本県の医療対策本部で、各地から集まった医療チーム等の調整役を担った。
- ・兵庫医科大学病院 医療救護班(兵庫県救護班)は、南阿蘇村の支援を担当。阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議「ADRO」本部が阿蘇医療センターに設置され、その本部からの指示をもとに、阿蘇地区の南阿蘇村や阿蘇市にて活動を行った。

- ・南阿蘇村久木野地区の仮設診療所での診療や、避難所の巡回に従事。アセスメントシートを用いて、傷病者の有無、感染症の有無、衛生状態の評価、災害弱者の把握等を行った。
- ・現場のニーズは日々変化。状況に応じて臨機応変に対応することが求められた。
- ・5月2日以降は、医療本部の役割を保健師支援にシフト。地元の保健師さんと、課題・問題点や対策について協議を重ねた。
- ・インフルエンザやノロウイルス感染が避難所などで発生したため、衛生管理、評価、介入方法などを記した感染対策マニュアルを作成した。



避難所(南阿蘇村)の様子



保健師と避難所を巡回

くもと森都総合病院 副院長 山中剛先生からお礼メールが届きました

先日は先生はじめDMATの方々のお蔭で、患者さんの移送も大きなトラブルもなく、円滑にできたこと、心より感謝申し上げます。あのような状況で我々を励ましてくださり、多数の患者さんを無事に転院していただいたこと、大変ありがたかったです。安心・安全な移送体制があったことも、大きかったと思います。

病院は大分落ち着き、外来診療は内視鏡以外は可能になりました。病棟修復も併せて行い、5月2日から、まず6床から入院再開、滞っている乳癌をはじめ、悪性腫瘍手術を行うことになりました。熊本の医療状況はかなり悪く、診療再開ができない病院や閉院が数カ所あり、当院がかりつけ患者さんが入院を要する状況になった時の他病院への依頼が大変です。

ダメージは受けましたが、何とか一日も早く完全復旧し、危機的な熊本の医療に貢献しなければとの思いが強いですが、また患者さんにとっても、かかりつけの病院での診療継続が一番の安心かと思っています。

今回、先生方の姿を見ていて、とても感動しました。これからは今まで以上にボランティア精神を持って生きていきたいと思っています。先生方は十二分にご活動いただいたと思います。これを機会に今後も宜しく願い申し上げます。チームの方々にも宜しくお伝え下さい。

平成28年4月29日
くもと森都総合病院 山中 剛

活動に参加したメンバーの声

兵庫医科大学の在学生によるボランティア活動については、P.18をご覧ください。



<DMAT、医療救護班> 上田 敬博 医師

東日本大震災に続き、DMATおよび医療救護班として活動を行いました。過去の経験や日頃の準備および訓練などのおかげで、予想していないことが発生した際でも即座に判断して行動に移すことができるのは本院チームの強みだと思います。災害の時ほどマニュアルは大切ですが、マニュアルに沿えないことが現場ではあるので、その時その場で柔軟に対応できる力が必要だと改めて感じました。今回、初めて災害現場を訪れたメンバーも何名かいましたが、各々の経験や感性を活かし、初めてながら柔軟に対応できていたのでよくやってくれたと思っています。診療や相談を行う中で被災者の皆さんと接しましたが、「医療班として来てくれてありがとう」「兵庫という遠方からありがとう」という言葉をかけていただいたので、お役に立てた部分があったのではないのでしょうか。

今回の活動を通して改めて感じたのは、「急性期・亜急性期・慢性期それぞれに不足しているものは何か」「被災地の人にとって本当に必要な支援は何か」など、被災者の目線に立って物事を考えることが重要だということです。私自身、阪神・淡路大震災の被災時に医学部生としてボランティアを行っている中で、もっと自分にできることがあるのではと痛感したことがきっかけで救命救急への関心を深めたため、その思いを常に抱き、災害医療に携わっています。

今後も、現場慣れ・臨床慣れしている兵庫医科大学病院のDMATが、どんな状況でもどんな場所でも活動できるよう、皆で心身ともに備えておきたいです。



<DMAT> 西山 佳奈 看護師

1日目の避難所回りでは、診療希望の被災者の方に対して問診を行ったり、バイタルサイン測定を行ったりしました。現役の医療従事者が不在の中で、被災した看護学生2名が自分たちが何とかしなければと、責任感を持って必死に避難所の管理等にあたっている姿が非常に印象的で、プロの私達も出来る限りのサポートを行おうと感じ行動しました。

また、DMATの活動では、いろいろな職種の人がそれぞれの専門性を生かしつつ、患者さん・被災者のために取り組んでいたのが、チーム医療を具体化したような現場だとも実感しました。今回、初めてDMATとしての活動に参加しましたが、現場で直面して戸惑ったこともあったので、その地域の独自性も含めて総合的にアンテナを張りつつ、今後の活動に生かしたいと思います。



<DMAT> 藤岡 孝博 業務調整員(臨床検査技師)

今回、業務調整員(ロジスティック担当)としてDMATに参加しました。

ロジスティックは被災地の情報収集および情報伝達を担います。いかにチームが円滑に動けるかを意識しながら、道路状況、建物の倒壊状況、救援物資の状況、被災者や傷病者の数などを確認し、チームやDMAT本部に伝達しました。

私は昨年にDMATの資格を得たばかりなので、被災現場で活動したのはこの熊本地震が初めてでしたが、細かい情報収集が無ければ後発隊も動けず、孤立する避難所も出てしまう可能性があるのも、ロジスティックの重要性をより認識しました。もっと的確に行動できるように、今後も訓練を受け、学んでいきたいです。



<医療救護班> 山田 太平 医師

今回、我々のチームだけでなく多くの医療班が被災地に駆け付けたことで、被災者の方に“何かあったら頼れればいい”という安心感を与えられたと思います。しかしながら、医療従事者側の想いが強くなりすぎて、被災者の気持ちを汲めていないチームもあったため、最優先事項は被災者側の気持ちや要望であることを忘れてはいけなと痛感しました。

被災地支援のニーズは本部に集積していたため、自らの業務に従事するかを選択できたのですが、地元の病院で寝る間も惜しんで働いていた医療従事者を帰宅させるためにその交代要員として看護業務に従事することや、病院支援だけでなく避難所のアセスメントを行うことも重要だと感じ、避難所回りを行うことを選び、それぞれ取り組みました。

また、普段の医療現場でできないことが災害現場でできるとは思えないため、日頃の着実な訓練や準備がすべて役に立ったと感じています。医療器具や資源が不足している中でどれほどのことができるのかは普段の我々の準備・勉強にかかっているため、今後も研鑽を積み重ねたいです。災害医療に携わっている立場としては、このような被災地での活動を多くの方に知ってもらい、興味を持つ人が増えてほしいと願っています。災害医療の門戸はいつでも開いているので、学生も教職員も、積極的に学んで欲しいです。

学校法人 兵庫医科大学

広報

vol.235/2016年7月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX 目次

特集

…1

熊本地震 医療支援活動レポート

I Campus News

…5

- ・学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院 北京中医薬大学短期留学報告会を開催
- ・健康長寿達成の秘訣の解明に向け、自立した高齢者500人を5年間追跡調査！
- ・国際規格ISO15189：2012(臨床検査室一品質と能力に関する特定要求事項)の認定を受けました
- ・「学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会」を開催
- ・平成27年度 先端医薬研究センター研究報告会・中医薬孔子学院 研究報告会を開催
- ・阪神地域初!! 大動脈弁膜症のカテーテル手術(TAVI)に成功
- ・ケアマネジャー対象の勉強会を初開催
- ・「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施
- ・看護の日 記念行事
- ・第16回 地域医療懇談会を開催
- ・登録医制度「武庫川クラブ」を開設
- ・高被引用論文数ランキングにて兵庫医科大学が免疫学で第10位に
- ・「さなぶり演芸会」を開催
- ・高校生向けの薬学イベントを開催
- ・免疫学 善本主任教授が、これまでの定説を覆すメカニズムを解明
- ・「看護職への道」を開催

II 各種報告

…11

平成27年度決算について

III 卒業生の今

…13

チームの力で“心臓”の治療に取り組む
中村 泰浩さん

IV The Professional ザ・プロフェッショナル

…15

思いに寄り添う医療・介護を ～人を深く知り、支える仕事～
兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター ささやま居宅介護支援事業所ケアマネジャー 足立 宗弘

V チームの力

…16

～呼吸ケアで早期離床をめざす～ 兵庫医科大学病院 RST(呼吸ケアチーム)

VI 知ってる？兵庫医科大学

…16

学生・教職員のための「備蓄倉庫」の中身とは？

VII 気になる授業

…17

兵庫医科大学「レベルアップ選択科目」／兵庫医療大学「運動器系理学療法学I・II」

VIII 学生の課外活動紹介

…18

IX 表彰および受賞紹介

…19

X 就任関連

…20

XI 平成28年度科学研究費助成事業交付内定一覧ほか

…21

IX 兵医・萌えの会 状況報告／新教育研究棟建設事業基金

…23

IX 主な行事予定(8月～10月)

…24



学校法人兵庫医科大学 中医薬孔子学院 平成27年度 北京中医薬大学短期留学報告会 を開催

平成28年4月15日に、兵庫医療大学 M-112講義室において、「北京中医薬大学短期留学報告会」を開催しました。

この報告会は毎年帰国後に開催しているもので、今年は平成28年3月22日から30日にかけての9日間、兵庫医科大学の3年次生5名、兵庫医療大学薬学部2年次生から4年次生の学生10名の計15名が北京中医薬大学へ短期留学した成果を発表しました。

今年の短期留学では、中国伝統医学の基礎や考え方、針やマッサージ、吸い玉などの手技や実際の医療現場など、日本では学ぶことのできない多くのことを、第一線で活躍する北京中医薬大学の教授陣から指導していただきました。また、今回は平成27年にノーベル生理学・医学賞を受賞された屠呦呦先生の研究施設の見学が実現し、大変貴重な体験ができた留学となりました。



中国の伝統的な療法、吸い玉を体験



ノーベル生理学・医学賞を受賞された屠先生の研究施設で



～西宮・神戸・篠山 3キャンパス合同研究～ 健康長寿達成の秘訣の解明に向け、自立した高齢者500人を5年間追跡調査！

新村健主任教授(兵庫医科大学 内科学 総合診療科学講座)と永井宏達講師(兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科)たちの研究チームは、「フレイル」の実態調査を、ささやま医療センターを拠点に進めています。



フレイルの実態調査には多くの方が参加



この活動量計を着けて生活をしてもらっています

【フレイルとは?】

加齢が原因で、身体の機能やストレスへの抵抗力が低下し、健康障害を招きやすい状態を「フレイル」と呼びます。この状態が続くと日常生活での自立が妨げられたり、寝たきりに陥る原因となったりするため、「フレイル」の研究の推進が社会的に注目されています。「フレイル」は肉体的な衰えだけでなく、うつ傾向や軽度認知機能障害(認知症ではないが物忘れが進行した状態)、栄養失調など、さまざまな要素により総合的に評価されます。



新村 健
主任教授

研究の対象は、丹波圏域在住で介護保険を利用していないか、あるいは利用していても軽いレベルの身の回りのことは自分でできるお年寄りの皆さんです。そのような500名を5年間追跡調査していきます。既に232名の方々が、本研究にエントリーしてくださいました。日ごろの食生活や運動習慣などが、身体機能、認知機能、骨密度、筋肉量などの変化に及ぼす影響を解明し、健康長寿達成の秘訣を探っていきます。



永井 宏達
講師

私の研究は主に「要支援」と「要介護1」の方を対象とします。主にささやま医療センターの実態調査に参加された方々に「活動量計」を持っていただいて調査をしています。調査では「将来フレイルを発症する高齢者と発症しない高齢者では、活動パターン特性がどのように異なるか」を解明したいと思っています。この研究を介護状態にならないための効果的な対策に役立てたいと思います。



国際規格ISO15189:2012(臨床検査室一品質 と能力に関する特定要求事項)の認定を受けました

兵庫医科大学病院臨床検査室(臨床検査部、輸血・細胞治療センター、超音波センター、臨床検査技術部)は、採血、生化学免疫検査、血液一般検査、微生物検査、生理検査、超音波検査、輸血検査について日本適合性認定協会の審査員5名による訪問審査を平成27年11月25日から27日に受け、平成28年2月24日、同協会の臨床検査室認定委員会の審議を経て国際規格としての認定を受けました。これにより本学の臨床検査室は、検査が正しく行われるための仕組み(マネジメントシステム)と正しい検査結果を出す技術・能力が国際的な基準を満たしていることが国際的に認定されました。また本学の評価は、その時点までに審査を受けた国内すべての施設の中でかなり高い評価を頂戴しました。今後この認定資格を維持するとともに、病理、遺伝子検査などについても本年度以降に条件を満たし認定を受けられるよう、皆様のご支援をお願いいたします。



認定証を授与



平成27年度 先端医薬研究センター研究報告会・ 中医薬孔子学院研究報告会 を開催

平成28年4月19日、兵庫医療大学M201講義室において、「先端医薬研究センター研究報告会・中医薬孔子学院 研究報告会」を開催しました。

第1部の先端医薬研究センター研究報告会では、兵庫医療大学から2つの研究グループの研究報告があり、第2部の中医薬孔子学院 研究報告会では、兵庫医科大学、兵庫医療大学それぞれの教員からだけでなく、兵庫医療大学 薬学研究科・博士課程の学生からも研究報告が行われました。



各研究グループからの報告

第1部 先端医薬研究センター研究報告

- 田中明人教授グループ
「AMED創薬支援テーマ:PCA-1阻害剤の探索合成と抗がん活性」
- 田中稔之教授グループ
「自然免疫シグナルによる抗腫瘍免疫チェックポイントの制御」



400名超の在学生が就職について真剣に相談 ～「学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会」を開催～

平成28年4月23日、全学部・全学年の在学生を対象とした「学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会」を体育館アリーナにて開催しました。この会は、これから明確な目標を持って勉学や就職活動などに取り組もうとしている在學生に向けた就職サポートの一環として、「学校法人兵庫医科大学連携病院の会」に加盟する医療機関のご協力のもと、毎年春に開催しているものです。

今年は、46の医療機関などからお集まりいただいた170名のご担当者様が各ブースで説明を行う中、昨年を大きく上回る計436名(薬学部157名、看護学部138名、リハビリテーション学部 理学療法学科71名、作業療法学科70名)もの在學生が参加。自ら興味を持った医療機関のブースをいくつも訪れて、熱心に説明を聞いたり、積極的に質問したりと、就職に対する意識の高さや熱心が伝わってくるイベントとなりました。



合同病院説明会の様子



第2部 中医薬孔子学院研究報告

- 兵庫医科大学 先端医学研究所 助教 長屋 寿雄
「サルビアーノ酸Bによる悪性中皮腫細胞に対する抗腫瘍効果に関する研究」
- 兵庫医科大学病院 循環器内科 病院助手 同大学院 医科学 器官・代謝制御系循環器病学 真鍋 恵理
「慢性心不全モデルラットにおける貧血に対する十全大補湯の効果についての検討」
- 兵庫医療大学 大学院 薬学研究科 博士課程3年 中尾 周平
「疼痛治療薬を目指したTRPA1阻害剤の探索合成」
- 兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科 助教 岩岡 恵実子
「産地別当帰の品質評価法の開発」
- 兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科 助教 小暮 洋子
「TRPチャネルをターゲットとした漢方治療薬成分のスクリーニング」
- 兵庫医科大学 内科学 消化管科 助教 近藤 隆
「ラット機能性ディスペプシアモデルにおける六君子湯のホスホジエステラーゼへの効果検討」

■4/1(金)

平成28年度入職式・オリエンテーションが平成記念会館で行われ、医師、看護師、コメディカル職、事務職等の新入職員が参加しました。



■4/5(火)

研究医コースに配属となった兵庫医科大学4年次生6名と3年次生4名がオリエンテーションに参加し、実質的に研究医コースが始動しました。



■4/8(金)

篠山キャンパスの退任記念講演として、山田参与に社会人としての教訓を、正木顧問に病院経営戦略についてご講演いただきました。



■4/12(火)

兵庫医療大学 看護学部1年次生が、レストラン横の海が見えるテラスで学年懇親バーベキューを行いました。



大学
病院

阪神地域初!! 大動脈弁膜症のカテーテル手術(TAVI)に成功

兵庫医科大学病院は、非常にハイリスクで重症の大動脈弁狭窄症(だいどうみゃくべんきょうさくしょう)の患者さんに対し、平成28年5月11日、低侵襲で体に負担の少ないカテーテル手術「経カテーテル的大動脈弁留置術:TAVI(※)」を行い、阪神地域で初めて成功しました。

※Transcatheter Aortic Valve Implantationの略。経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会により平成28年2月22日に実施施設として認定。

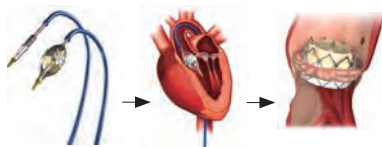
大動脈弁狭窄症とは?

心臓弁膜症のひとつで、大動脈弁の開きが悪くなり、血液の流れが妨げられてしまう疾患です。重症になると失神や突然死に至る可能性もあります。

これまでの手術とTAVIの違い

これまでの大動脈弁狭窄症の手術では、胸部を大きく切開し、人工心肺を装着して心臓を一旦止めた後に、悪くなった弁を切り取り人工弁に置換していたため、患者さんの身体に大きな負担がかかるという問題がありました。TAVIはそんな患者さんの身体負担を大幅に軽減する手術法で

あり、開胸することも心臓を止めることもなく、足の付け根などからカテーテルを用いて折りたたんだ人工弁を挿入し、早ければ開胸手術の半分の時間で手術を終えることができるようになりました。



折りたたまれた生体弁を装着したカテーテル(左)と、バルーンを膨らませたカテーテル(右) 足の付け根などからカテーテルを挿入し、心臓の大動脈弁の位置で生体弁を膨らませる 画像: Edwards社提供

阪神地域の患者さん・医師に向けて

当院でTAVIが可能になったことを末だご存じではない地域住民の方々や阪神地域の多くの医師に対し、患者さんの命を救うため、またQOL(クオリティーオブライフ)を向上させるために、TAVIが可能になった医療機関として積極的に周知を行っていく予定です。



TAVIハートチームとハイブリッド手術室

ささ
やま

地域と一体化して介護に取り組むため ケアマネジャー対象の勉強会を初開催

ささやま居宅サービスセンターでは、地域の方々と協調するための第一歩として、平成28年5月27日にケアマネジャー対象の勉強会を初めて開催しました。第1回は地域総合医療学 大松重宏 准教授が「ケアマネジャーのためのスーパービジョン」について講演。地域で活動する多くのケアマネジャーの方々に参加いただき、介護支援を実践するうえでの悩みや困りごとを共有することができたほか、患者さんが住み慣れた地域でより良い暮らしを送るための医療介護連携・多職種連携と一緒に考える機会となりました。今後も篠山キャンパス教職員で協力し、地域に向けた勉強会や研修を企画していく予定です。なお、次回のケアマネジャー勉強会は9月開催です。



医科大

“奉仕”の精神を磨くため、学生が中心となり 「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施

世界禁煙デーである5月31日から6月23日までの約1カ月間、学生がキャンパス周辺やクラブ活動で使用している施設周辺の「タバコの吸殻・ゴミ拾い活動」を実施しました。

兵庫医科大学では従来から敷地内を全面禁煙とし、全学を挙げて禁煙を推進しています。今回の取り組みは、学生・教職員に対して禁煙を啓発するとともに、建学の精神である「社会の福祉への奉仕」の精神を涵養するために行われ、1カ月間を通じて、学生の有志約300人が活動に参加しました。今年の参加人数は昨年よりも多く、学生のボランティア意識が高まっていることがうかがえます。

また、野口学長、難波病院長をはじめ、多くの教職員もタバコの吸殻・ゴミ拾いに参加し、禁煙の啓発活動を行いました。

今後も継続的に大学周辺のタバコの吸殻、ゴミ拾いの活動を行う予定です。



■4/21(木)

兵庫医療大学 薬学部の実務実習報告会がP棟にて行われ、6年次生が実務実習の成果を実習先の先生・教職員や同級生等に報告しました。



■4/25(月)

兵庫医療大学入学生特別奨学金の奨学生4名に対する奨学生証の授与式を行い、馬場学長から奨学生証と記念品が授与されました。



大学
病院

【看護の日 記念行事】 イベントの参加者が去年の約3.5倍に！パネル展示も好評！

兵庫医科大学病院は、「看護の日」(毎年5月12日)にちなんだ活動として、パネル展示「私たちの“きらり”看護」(平成28年5月7日～27日)と、体験イベント「一日 まちの保健室」(平成28年5月21日)を開催しました。

「私たちの“きらり”看護」では、患者さんをはじめ、ご家族や地域の皆さん、日々共に働く病院職員などに向けて、約1000人の看護師たちが伝えたいメッセージを院内に展示。多くのの方々



皆さんの目線がパネル展示へ

がパネル展示の前を歩くたびに足を止めてご覧になっていました。

「一日 まちの保健室」では、骨密度測定・乳癌触診体験・禁煙相談など、計6つの体験ブースを設置。本イベントを開催するのが3年目ということもあり、去年は80名だった参加者が、今年は290名と大盛況でした。中には、兵庫医科大学病院への受診歴がない方も参加されていて、普段の診療では関わっていない地域の皆さんとも交流することができました。



普段お会いしていない地域の方とも交流

大学
病院

～地域医師会との連携を深めるために～ 第16回 地域医療懇談会を開催

6月4日に開催した「第16回 地域医療懇談会」(主催:兵庫医科大学病院)では、各市の医師会や兵庫県の歯科医師会の会長などが、各市の医療機関の現状や、当院との連携で求めることなどについて講演しました。当院に対しては、「二次・三次救急を支えてくれているので助かる」「昔と比べて紹介しやすくなった」というお褒めの言葉があった一方で、「糖尿病などの専門医が少ない市なのでもっと派遣してほしい」「診療が困難な患者さんをこれまで以上に受け入れてほしい」など、地域連携の強化について大変重要な意見もたくさんいただきました。厚生労働省は質の高い医療を行うことを目的に、各医療機関の役割分担を進めています。兵庫医科大学病院も特定機能病院としての役割を担うべく、今後も各医療機関との円滑な連携に努めていきます。



各市の医療機関の医師や看護師などが参加



今後の地域医療に活かすべく、互いに情報共有

【講演者】
西宮・尼崎・芦屋・宝塚・伊丹・川西・三田・神戸市の各医師会、兵庫県歯科医師会

大学
病院

～地域の医療機関との密接な連携を図るため～ 登録医制度「武庫川クラブ」を開設

兵庫医科大学病院では、医療サービスの向上を目的として地域の医療機関とより密接に連携するため、平成28年4月、当院に患者さんをご紹介いただいた医療機関に所属する医師・歯科医師を対象とした登録医制度「武庫川クラブ」を開設しました。

本クラブに登録を希望される場合は、「武庫川クラブ会員確認書」をご送付いただくこととなりますが、第1期の先行案内として、当院に多数の患者紹介実績がある約500医療機関



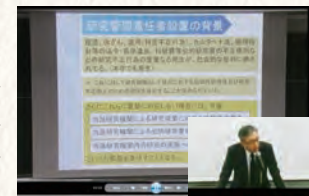
に対して案内したところ、すでに半数以上から会員確認書の回答を得ることができました(平成28年6月現在)。今後は第2期として、さらに約3,000の医療機関に対してご案内していく計画です。

なお、本クラブにご登録いただいた医師・歯科医師の所属される医療機関には「登録認定プレート」を送付させていただくとともに、登録情報を当院ホームページに掲載させていただきます(※随時更新)。

その他の特典などの詳細は、当院ホームページをご確認ください。
http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/community_health/mukogawa_club.html

■5/19(木)

適正な研究の推進を目的に兵庫医科大学各講座等に配置された研究管理責任者を対象として、その役割や倫理申請に関わる講習会を開講しました。



高被引用論文数ランキングにて 兵庫医科大学が免疫学で第10位に

世界的な情報サービス企業であるトムソン・ロイター社(本社：米国ニューヨーク)が平成28年4月18日に発表した、「高被引用論文数による日本の研究機関ランキング」の中で、免疫学の分野において、兵庫医科大学が第10位にランクインしました。

このランキングは、後続の研究に大きな影響を与えている論文(高被引用論文)数をもとに、国内で存在感のある研究機関を把握しようという目的で分析されており、毎年上位グループに入っている兵庫医科大学の研究内容は、免疫学分野においてインパクトがかなり高いと言えます。

【免疫学分野(世界5位)】

順位	機関名	高被引用論文数	高被引用論文数の割合
1	大阪大学	64	5.2%
2	東京大学	41	2.9%
3	京都大学	33	3.8%
4	国立研究開発法人理化学研究所	29	3.9%
5	慶應義塾大学	11	2.5%
6	九州大学	9	1.7%
7	東北大学	9	1.7%
8	千葉大学	8	1.9%
9	順天堂大学	7	1.4%
10	兵庫医科大学	6	3.5%
10	横浜市立大学	6	2.9%
10	北海道大学	6	1.0%
10	国立感染症研究所	6	0.6%

(出典：トムソン・ロイター社 平成28年4月18日プレスリリース)

患者さんをもっと笑顔に！ 「さなぶり演芸会」を開催

平成28年6月1日、ささやま医療センター玄関ホールで、さなぶり演芸会が開催されました。「さなぶり」とは田植えを終えた祝いのことをいい、演芸会は入院患者さんや外来患者さんに演芸を楽しんでいただき気分をリフレッシュしてもらおうと、ささやま医療センター支援グループ「ささゆり」が企画を行ったものです。当日は、篠山市で活動している方々による日本舞踊、腹話術、漫才に加えて、院内保育所の子供たちによるかわいいたんぽうも披露されました。漫才コンビ「まるっち〜ず」による漫才では、医療センターの医師を題材にしたネタや、観客との掛け合いやふれあいもあり、入院患者さん大いに楽しんでいました。

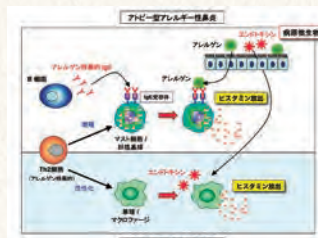


免疫学 善本主任教授が、これまでの定説を覆すメカニズムを解明 「アトピー素因を持たない人でもアレルギー性鼻炎を発症」

兵庫医科大学 免疫学 善本知広 主任教授の研究グループは、マウスを用いた実験により、IgE抗体(※)を介さないアレルギー性鼻炎の発症メカニズムを明らかにしました。

これまで、I型アレルギー疾患はIgE抗体によるアレルギー反応を指し、外因性のアレルゲン(スギ花粉、ブタクサ花粉、ハウスダスト、ダニなど)があることを前提としていました。しかし今回、非IgE依存性の経路が別に存在し、黄砂や花粉などに含まれるエンドキシン(リポ多糖；LPS)が非IgE型アレルギー性鼻炎の発症に重要な引き金となっていることを発見しました。

研究成果に関する論文は、日本時間 平成28年6月8日(現地時間7日)に、アレルギー研究で最も権威のある米国アレルギー・喘息・免疫学会誌 The Journal of Allergy and Clinical Immunologyの電子版に掲載されたほか、学

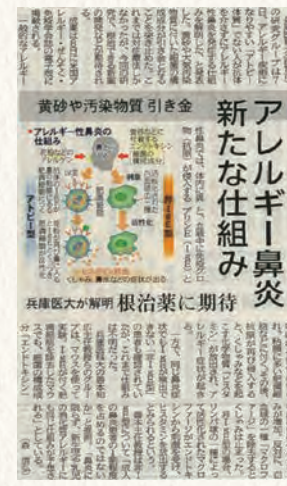


内にて開催した記者会見にも複数の報道関係機関が取材に訪れ、翌日の朝刊やWebニュースなどで大々的に記事が掲載されました。

※タンパク質の一種で、アレルギー疾患(喘息、花粉症、食物アレルギー)の発症に関わる重要な抗体



会見中の善本主任教授



6月8日の神戸新聞朝刊1面に記事が掲載されました

★研究内容に関する詳細については、大学ホームページをご覧ください。
http://www.hyo-med.ac.jp/research_facilities/output/gyoseki/20160608.html

～大学病院で職業について知り、大学で学びを体験する～ 高校生向けの薬学イベントを開催

平成28年6月5日、兵庫医療大学 薬学部と兵庫医科大学病院 薬剤部との合同イベント「薬剤師への道」を開催しました。本イベントは、高校生に対して薬学に興味を持ってもらうために毎年開催しているイベントで、テーマは「大学病院で職業について知り、大学で学びを体験する」。当日は48名の高校生に参加いただき、午前中は兵庫医科大学病院にて現役薬剤師の説明や院内薬剤部を見学、午後は兵庫医療大学に移動し、2グループに分かれて体験講義と体験実習を交代で実施しました。



AM 兵庫医科大学病院

「薬剤師の仕事について知ろう!」

兵庫医科大学病院 薬剤部に勤務する兵庫医療大学出身の薬剤師が、恩師でもある薬学部の青木教授とパネルトークを行いました。



「大学病院 薬剤部の職場見学!」

参加者はグループごとに薬剤部を見学。現役の薬剤師が昨年新設した薬剤室などへ引率し、機器の使用方法や調剤方法、投薬する際の注意点について説明しました。



PM 兵庫医療大学 「大学での学びを体感しよう!」

●体験講義

体験講義では、はじめに薬学部の上田教授から、薬学部での学びや他学部と学ぶ「チーム医療」教育について説明。続いて、薬学部の天野教授が薬剤師の仕事内容や進路について説明しました。



●体験実習

薬局を模した実習室「臨床薬学研修センター」で実習を体験していただきました。

- ・分包体験
- ・軟膏作り体験
- ・水剤作り体験
- ・散剤作り体験



看護職を目指す高校生や受験生を対象とした イベント「看護職への道」を開催!

平成28年6月12日、看護職を目指す高校生や受験生を対象としたイベント「看護職への道」を開催しました。

このイベントは、兵庫医療大学で資格取得が可能な「看護師」「保健師」「助産師」のキャリア像をつかみ、看護専門職者になるまでの大学・看護学部における学びを体感していただくこと、年に1回開催している特別イベントです。今年は168人の高校生と多くの保護者に参加いただきました。

大学紹介

本学の特徴である看護学部・薬学部・リハビリテーション学部+医学部(兵庫医科大学)合同で学ぶチーム医療教育や、同一法人に兵庫医科大学を持つ「医療総合大学」であることのメリットをPRしました。



在学生による学部紹介

看護学部3年次生2名が登場し、スライドや写真を用いて、看護学部の講義、学内実習、兵庫医科大学病院での実習の様子などを学生目線でわかりやすく紹介しました。



体験講義

生活看護学領域(老年看護学)担当の細見教授が、「高齢者にとっての『食えること』を看護の視点で考えてみましょう!」をテーマに講義を行いました。高齢者の「食えること」について、栄養面や身体面からだけでなく、心の動きや社会的背景を考える大切さを学びました。



在学生による国際看護への取り組み紹介・教育制度紹介

オーストラリアの国立アデレード大学へ短期留学した2年次生2名が、実体験した約3週間のホームステイ、アデレード大学看護学部の授業や病院での演習・実習体験などについて紹介しました。



兵庫医科大学病院 病院・教育制度紹介

兵庫医科大学病院の看護部 笠松次長から、兵庫医科大学病院の紹介や教育制度について説明があり、これから看護職を目指す高校生に向けてメッセージが送られました。



卒業生によるパネルトーク

看護職として働く兵庫医療大学の卒業生4名に登壇いただき、現在の仕事内容や看護師、保健師、助産師を目指すきっかけとなったエピソードなどについて紹介しました。



■6/1(水)

科学的かつ倫理的で質の高い臨床研究を実施するため、臨床研究に関わる教職員等を対象に臨床研究研修会を開催し、327名が出席しました。



■6/4(土)～5(日)

法人の現状や経営方針、私立大学としての責務などについて網羅的に学ぶため、兵庫医科大学・兵庫医療大学の教員を対象に1泊2日のFD合宿を開催しました。



■6/18(土)～19(日)

三木市内で兵庫医療大学リーダーズキャンプを実施し、各団体のリーダーである学生44名がグループ討議等に取り組みしました。



■6/23(木)

兵庫医科大学病院と一般企業との共催で「循環器疾患勉強会」を西宮市内で開催し、80名を超える医療職が出席しました。



平成27年度決算について

平成27年度は、学校法人全体の経営基盤安定に向けた運営の改善、効率化により持続的投資を可能とする適正な収支差額を確保した予算編成方針の下に、次のような重点事項を掲げスタートし、事業活動を行いました。

- ①西宮キャンパスグランドデザイン等の各種計画を着実に実行できる財務基盤の確立
- ②新教育研究棟の建設着工
- ③健康医学クリニックの開業とその運営計画の着実な履行
- ④急性医療総合センターの効率的運用により安定的な医療収入を確保し、法人全体の収支確保に寄与する
- ⑤ささやま医療センターの運営改善に向けて制定した経営方針の着実な実行
- ⑥兵庫医療大学における自己点検に基づく更なる教育・研究の適正化、運営の効率化推進
- ⑦長期収支財務シミュレーションに基づく各部門の目標収支差額の堅持

この結果、平成27年度決算に係る財務諸表は、以下のとおりとなりました。

【事業活動収支計算書】平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

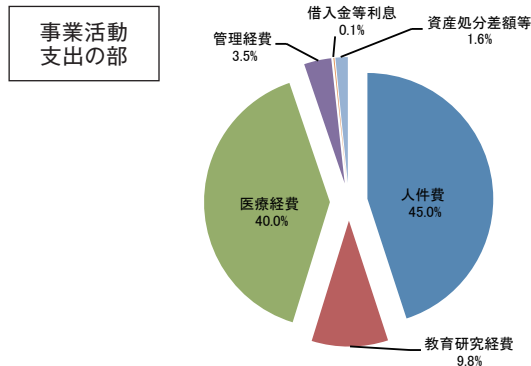
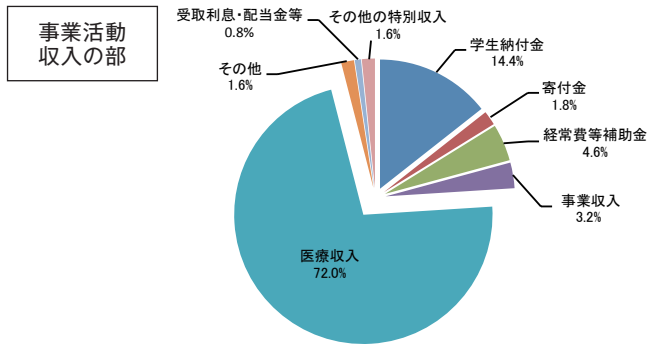
(単位：円)			
事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金	7,573,590,000	7,492,788,360	80,801,640
手数料	327,905,000	273,101,840	54,803,106
寄付金	692,398,000	931,044,690	△ 238,646,690
経常費等補助金	2,490,270,000	2,402,332,819	87,937,181
国庫補助金	2,301,982,000	2,215,968,360	86,013,640
地方公共団体補助金	188,288,000	186,364,459	1,923,541
付随事業収入	38,479,487,000	39,162,150,215	△ 682,663,215
事業収入	1,420,691,000	1,672,746,727	△ 252,055,727
医療収入	37,058,796,000	37,489,403,488	△ 430,607,488
雑収入	590,621,000	561,784,361	28,836,639
教育活動収入計	50,154,271,000	50,823,202,283	△ 668,931,285
受取利息・配当分	227,266,000	403,782,669	△ 176,516,669
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	227,266,000	403,782,669	△ 176,516,669
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	145,847,000	851,662,042	△ 705,815,042
特別収入計	145,847,000	851,662,042	△ 705,815,042
事業活動収入の部合計	50,527,384,000	52,078,646,996	△ 1, 551,262,996

(単位：円)			
事業活動支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	22,958,395,000	22,909,969,141	48,425,859
教職員等人件費	22,114,036,000	22,112,350,581	1,685,419
退職給与引当金繰入額	772,461,000	709,565,060	62,895,940
退職金	71,898,000	88,053,500	△ 16,155,500
教育研究経費	4,924,593,000	5,001,518,903	△ 77,222,903
医療経費	18,892,459,000	20,377,168,215	△ 1,484,709,215
管理経費	1,721,933,000	1,788,387,166	△ 66,454,166
徴収不能額等	14,214,000	11,310,380	2,903,620
教育活動支出計	48,511,594,000	50,088,650,805	△ 1,577,056,805
借入金等利息	68,596,000	61,863,685	6,732,315
その他の教育活動支出	0	0	0
教育活動外支出計	68,596,000	61,863,685	6,732,315
資産処分差額	244,699,000	787,627,331	△ 542,928,331
その他の特別支出	0	17,805,101	△ 17,805,101
特別支出計	244,699,000	805,432,432	△ 560,733,432
[予 備 費]	400,000,000		400,000,000
事業活動支出の部合計	49,224,889,000	50,955,946,922	△ 1,731,057,922
基本金組入前当年度収支差額	1,302,495,000	1,122,700,074	179,794,926
基本金組入額合計	△ 1,765,439,000	△ 2,372,347,675	606,908,675
当年度収支差額	△ 462,944,000	△ 1,249,647,601	786,703,601
前年度繰越収支差額	△ 40,026,240,322	△ 40,026,240,322	0
翌年度繰越収支差額	△ 40,489,184,322	△ 41,275,887,923	786,703,601

収入面では、兵庫医療大学の学生数の減少により学生納付金が全体で74.9億円と、前年度比0.7億円減少しました。医療収入に関しては、当年度より保留レセプトを計上したこともあり、本院では23.8億円増加し、ささやま医療センターも入院患者数、外来患者数の増加により、1.4億円増となりました。その結果、医療収入全体は374.9億円で前年度比27.7億円増加し、事業活動収入は520.8億円となりました。

支出面では、人件費が229.1億円、教育研究経費が50.0億円、薬品費、医療材料費等の医療経費が203.8億円等で、事業活動支出合計は前年度比31.5億円増加し、509.6億円となり、事業活動収入から事業活動支出を引いた基本金組入前当年度収支差額は11.2億円でした。また、基本金組入額は23.7億円で、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を引いた当年度収支差額は12.5億円の支出超過となりました。

【平成27年度決算構成比率】



【資金収支計算書】平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)			
収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金収入	7,573,590,000	7,492,788,360	80,801,640
手数料収入	327,905,000	273,101,840	54,803,160
寄付金収入	692,398,000	919,459,079	△ 227,061,079
補助金収入	2,589,117,000	2,596,975,819	△ 7,858,819
国庫補助金収入	2,310,829,000	2,301,171,360	9,657,640
地方公共団体補助金収入	278,288,000	295,804,459	△ 17,516,459
資産売却収入	1,500,000,000	2,000,000,000	△ 500,000,000
付随事業・収益事業収入	38,479,487,000	39,162,150,215	△ 682,663,215
事業収入	1,420,691,000	1,672,746,727	△ 252,055,727
医療収入	37,058,796,000	37,489,403,488	△ 430,607,488
受取利息・配当金収入	227,266,000	403,782,669	△ 176,516,669
雑収入	590,621,000	1,176,169,054	△ 585,548,054
借入金等収入	4,112,783,000	102,898,542	4,009,884,458
前受金収入	1,133,847,433	1,193,175,602	△ 59,328,169
その他の収入	6,740,957,908	6,912,305,749	△ 171,347,841
資金収入調整勘定	△ 8,036,804,799	△ 9,227,598,646	1,190,793,847
前年度繰越支払資金	9,430,375,682	9,430,375,682	
収入の部合計	65,361,543,224	62,435,583,965	2,925,959,259

(単位：円)			
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	22,927,345,000	22,985,506,581	△ 58,161,581
教職員等人件費支出	22,114,036,000	22,112,350,581	1,685,419
退職金支出	813,309,000	873,156,000	△ 59,847,000
教育研究経費支出	3,527,612,000	3,598,460,093	△ 70,848,093
医療経費支出	16,257,756,000	17,747,990,030	△ 1,490,234,030
管理経費支出	1,632,947,000	1,725,407,234	△ 92,460,234
借入金等利息支出	68,596,000	61,863,685	6,732,315
借入金等返済支出	1,172,863,000	1,291,486,411	△ 118,623,411
施設関係支出	7,541,429,000	1,550,659,015	5,990,769,985
設備関係支出	1,243,058,000	1,468,683,865	△ 225,625,865
資産運用支出	1,500,000,000	2,600,000,000	△ 1,100,000,000
その他の支出	6,384,018,933	6,157,689,406	226,329,527
[予 備 費]	400,000,000		400,000,000
資金支出調整勘定	△ 5,213,864,137	△ 7,068,287,327	1,854,423,190
次年度繰越支払資金	7,919,782,428	10,316,124,972	△ 2,396,342,544
支出の部合計	65,361,543,224	62,435,583,965	2,925,959,259

資金収支計算書については、前年度より繰り越した資金(現金預金)が94.3億円で、次年度への繰越資金は、103.2億円となりました。

【貸借対照表】平成28年3月31日

(単位：円)			
資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	59,798,725,829	60,834,717,425	△ 1,035,991,596
有形固定資産	56,717,499,039	57,983,787,769	△ 1,266,288,730
土地	15,754,750,169	15,765,231,332	△ 10,481,163
建物・構築物	29,570,437,583	30,962,709,111	△ 1,392,271,528
教育研究用機器備品	9,283,696,582	9,890,132,862	△ 606,436,280
管理用機器備品	358,090,449	359,706,170	△ 1,615,721
図書	814,247,581	833,198,660	△ 18,951,079
建設仮勘定	890,889,600	127,029,600	763,860,000
その他	45,387,075	45,780,034	△ 392,959
特定資産	999,809,111	999,809,111	0
教育施設設備等引当特定資産	199,818,000	199,818,000	0
退職給与引当特定資産	799,991,111	799,991,111	0
その他の固定資産	2,081,417,679	1,851,120,545	230,297,134
その他	2,081,417,679	1,851,120,545	230,297,134
流動資産	24,267,582,966	22,091,983,582	2,175,599,384
現金預金	10,316,124,972	9,430,375,682	885,749,290
有価証券	5,453,400,000	5,500,000,000	△ 46,600,000
その他	8,498,057,994	7,161,607,900	1,336,450,094
資産の部合計	84,066,308,795	82,926,701,007	1,139,607,788

(単位：円)			
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	11,934,146,230	13,148,725,173	△ 1,214,578,943
長期借入金	4,713,830,000	5,849,110,000	△ 1,135,280,000
退職給与引当金	6,424,022,958	6,499,560,398	△ 75,537,440
長期未払金	796,293,272	800,054,775	△ 3,761,503
流動負債	9,746,971,851	8515,485,194	1,231,486,657
短期借入金	1,125,428,542	1,163,736,411	△ 38,307,869
1年以内償還予定学校債	10,000,000	25,000,000	△ 15,000,000
前受金	1,193,175,602	1,124,676,083	68,499,519
その他	7,418,367,707	6,202,072,700	1,216,295,007
負債の部合計	21,681,118,081	21,664,210,367	16,907,714

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	103,661,078,637	101,288,730,962	2,372,347,675
第1号基本金	100,551,078,637	98,178,730,962	2,372,347,675
第4号基本金	3,110,000,000	3,110,000,000	0
繰越収支差額	△ 41,275,887,923	△ 40,026,240,322	△ 1,249,647,601
翌年度繰越消費支出超過額	△ 41,275,887,923	△ 40,026,240,322	△ 1,249,647,601
純資産の部合計	62,385,190,714	61,262,490,640	1,122,700,074
負債及び準資金の部合計	84,066,308,795	82,926,701,007	1,139,607,788

※注記 減価償却額の累計額 51,863,350,291円
基本金未組入額 8,053,610,124円

資産のうち固定資産は、有形固定資産及びその他の固定資産合わせて598.0億円で、前年度対比10.4 億円減です。これは、新教育研究棟建設の遅れにより設備投資額が減価償却額以下になったことが主な要因です。流動資産は、現金預金が103.2億円、短期有価証券が54.5億円等で、242.7億円です。

負債のうち固定負債は、新規の借入金が無かったことで返済が進み、退職給与引当金を含め119.3億円と前年度比12.1億円減となりました。流動負債は、薬品費の未払金増加要因で97.5億円となり総負債は、216.8億円です。

基本金は、当年度に23.7億円の組入れ増加要因があり、基本金の部合計額は、1,036.6億円となりました。

※財産目録や財務比率等含めた事業報告書は、本法人の情報公開規程に従い、西宮キャンパス総務部総務課において、開示請求を受け付けております。